

発行日:平成29年12月22日

担当:会員サービス課 service@niigata-cci.or.jp

〒950-8711 新潟県中央区万代島5番1号 万代島ビル7階

URL <http://www.niigata-cci.or.jp> E-mail office@niigata-cci.or.jp

「ひこにゃん」や「今年の漢字」に学ぶ、人がみずから動く ブームを作る方法とは ～ 殿村美樹氏特別講演会 ～

11月13日、新潟県信用保証協会との共催で特別講演会を開催しました。当日は、ゆるキャラブームの先駆けとなった滋賀県彦根市のマスコットキャラクター「ひこにゃん」の仕掛け人で、「佐世保バーガー」「うどん県」「今年の漢字」といった全国的ブームのプロデューサーとしても知られるTMオフィス代表取締役・PRプロデューサーの殿村美樹氏が、「ブームをつくる 人がみずから動く仕組み」をテーマに講演しました。

【殿村氏講演概要】

- ・PRとは“Public Relations”のことであり、アメリカ発祥のwin-winのコミュニケーション方法。この考えは、地域や中小企業の魅力発信に効果的であり、日本人の7割を占める地方在住者、国内の99・7%を占める中小企業を元気にする特効薬である。お金をほとんどかけず、イノベーションを起こすことができる。
- ・PRには、モノをどんどん大きく見せていく足し算の方法と、PRを利用した引き算の方法があるが、引き算の方法が効果的である。ビジュアルインパクトを与え、印象に残っているうちに積み掛けるように、みずから動いている「人」に光を当てていくことで、話題を呼び、行ってみたい、試したいと思わせるように仕向ける。
- ・人がみずから動く仕組みはイソップ童話の北風と太陽で表現できる。北風は力いっぱい風を吹くことで、マントを脱がそうとしたのに対し、太陽は光をさんさんと浴びせることで、みずからマントを脱ぐように促した。つまり、北風：お金の力で人を動かそうとする広告、太陽：光を当ててみずから動くようにする広告、である。
- ・マスコミを頼って東京から記者を呼ぶ必要はなく、積極的に無料の記者クラブを利用すべきである。PRを実践する際、時代に合った伝え方が重要。ポイントは「心」が動く共感ストーリー、10文字以内、インパクトの強いビジュアル、の3つ。広くPRするためには、マスメディアだけでも、ソーシャルメディアだけでも難しい。マスメディアで取り上げられると国内外広く周知でき、SNSでは特定の対象には効果的に周知できる。この違いを理解し、PRに生かして欲しい。



食品関連小規模事業者の販路開拓を支援 ～フードメッセ in にいがた2017～

「フードメッセ in にいがた2017」が11月8日～10日の3日間、朱鷺メッセ展示ホールにおいて開催されました。国内外から食品関連や調理機器メーカーなど過去最多の450社が出展し、3日間で1万人超が来場しました。

当所が昨年度より実施している小規模事業者への出展支援事業を利用して、会員事業所10社が出展し、販路開拓に向けた自社製品のPRや、新規顧客獲得のための情報収集に努めました。今年は、出展効果を最大限高めるために、マーケティングプランナーが当日の支援にあたり、POPの掲示や商品の陳列方法、試食の提供等についてアドバイスを行いました。出展者から寄せられた主なコメントは以下のとおりです。

- 初めての出展で、開催前は不安だったが、成果に結びつき出展して本当に良かった。出展者同士で交流を持てたことも有意義であった。
- 自分がターゲットとしていた事業所はもとより、自社では想像していなかった事業所からも声掛けいただき、販路の拡大につながりそうだ。

- イベント出展とは違う商品を陳列することができ、違うターゲットに向けてPRすることができた。この出展を活かし今後の販路開拓に繋げたい。
- 東京の大規模展示会に出展する以上に成果につながった。是非また来年も出展したいと思っている。

次回は平成30年11月7、8、9日の開催を予定しており、参加希望の小規模事業者は是非、当支援事業をご活用ください。

社会保険労務士相馬事務所 相馬 篤哉

☆彡 今月のテーマ 《 マタハラ・パタハラ防止処置 》

事業主が「マタハラ」「パタハラ」を防止する措置を講じることが義務付けられて、1年が経過しようとしています。今月はマタハラ・パタハラの事業主による防止措置義務を取り上げてみたいと思います。

◆ マタハラとは ◆

マタハラとはマタニティハラスメントの略で、働く女性が妊娠、出産、育児をきっかけに職場で精神的・肉体的に嫌がらせを受けたり、妊娠、出産、育児などを理由として解雇や雇止め、自主退職の強要で不利益を被ったりするなどの不当な扱いを受けることです。具体的には、妊娠した、出産した、妊婦健診のため仕事を休んだ、産前産後休業をとった、育児休業をとったなどの理由で、解雇された、労働契約が更新されなかった、パートになれと強要された、減給された、普通ありえないような配置転換をされた、育児短時間勤務をしていたら同僚から「早く帰るせいで、まわりが迷惑している」と何度もいわれたなどの取扱いを受けることです。

◆ パタハラとは ◆

パタハラとはパタニティハラスメントの略です。パタニティとは「父性」を意味し、男性が育児参加を通じて自らの父性を発揮する権利や機会を、職場の上司や同僚が侵害する言動におよぶことです。具体的には、子供の保育園へのお迎えや急病で迎えに行く場合で、同僚が非協力的で残りの仕事の引継ぎを断られる、嫌がられる、重要な仕事から外された、育児休業を申請したら上司から「会社をやめろ」といわれたなどの取扱いを受けることです。

◆ 事業主の措置義務 ◆

平成29年1月1日から事業主は、育児休業、介護休業その他子の養育又は家族の介護に関する制度又は措置の申出・利用に関する言動により、労働者の就業環境が害されることがないように、労働者からの相談に応じ、適切に対応するために必要な体制の整備その他の雇用管理上必要な措置を講じなければなりません。具体的には

①事業主の方針の明確化及びその周知・啓発

(1) 妊娠・出産・育児休業・介護休業等に関するハラスメントの内容 (2) 妊娠、出産等に関する否定的な言動が職場における妊娠、出産等に関するハラスメントの発生の原因や背景となり得ること (3) 「ハラスメントがあってはならない」旨の事業主方針、(4) 妊娠・出産に関する制度、育児休業・介護休業等の制度が利用できる旨を就業規則等の規定や文書等に記載して周知・啓発する

②相談（苦情を含む）に応じ、適切に対応するために必要な体制の整備

被害を受けた者や目撃した者などが相談しやすい相談窓口（相談担当者）を社内に設ける

③職場における妊娠・出産・育児休業等に関するハラスメントにかかる事後の迅速かつ適切な対応

ハラスメントの相談があったとき、すみやかに事実確認し、被害者への配慮、行為者への処分等の措置を行い、改めて職場全体に対して再発防止のための措置を行う

④職場における妊娠・出産・育児休業等に関するハラスメントの原因や背景となる要因を解消するための措置

妊娠・出産、育児休業等に関するハラスメントの原因や背景となる要因を解消するため、業務体制の整備など、事業主や妊娠等した労働者やその他の労働者の実情に応じ必要な措置を講じる

⑤上記①～④までの措置と併せて講ずべき措置

相談者・行為者等のプライバシー保護のための措置を講じ、相談したこと、事実関係の確認に協力したこと等を理由として不利益な取扱いを行ってはならない旨を定め、周知・啓発する

◆ まとめ ◆

事業主による妊娠・出産・育児休業・介護休業等を理由とする解雇その他不利益な取扱いは以前から禁止されていました。平成29年1月からは上司・同僚が職場において、妊娠・出産・育児休業・介護休業等を理由とする就業環境を害する行為をすることがないように防止措置を講じることが事業主の義務となりました。この防止措置を講じなかった場合、企業への制裁として、行政からの助言、指導、勧告、企業名の公表が行われます。

☆詳しい内容については、労務管理の専門家にお聞き下さい！新潟県社会保険労務士会ホームページ <http://www.sr-niigata.jp> ☆



坂本 光司／さかもと・こうじ

1947年生まれ。福井県立大学教授、静岡文化芸術大学教授などを経て、2008年4月より法政大学大学院政策創造研究科（地域づくり大学院）教授、同静岡サテライトキャンパス長および同イノベーション・マネジメント研究科兼任教授。ほかに、国や県、市町、商工会議所などの審議会・委員会の委員を多数兼務している。専門は中小企業経営論・地域経済論・産業論。著書に『日本でいちばん大切にしたい会社』（あさ出版）、『この会社はなぜ快進撃が続くのか』（かんき出版）など。

「健康・命の大切さを知り変わった『沖縄教育出版』」

先般、経営者や経営幹部の異業種交流会である、「神田経営者クラブ」や「静岡県中小企業経営革新フォーラム21」「福井県中小企業経営革新フォーラム」のメンバー20数人と一緒に、沖縄県の企業視察をしてきた。

常食・制限食の製造販売の「パーソナルフードサービス」、IT企業の「シーポイント」、沖縄最大の菓子製造販売や外食産業を営む「御菓子御殿」、さらには、健康食品や化粧品企画・通信販売企業である「沖縄教育出版」の4社を今回は訪問してきた。いずれも、沖縄県を代表する著名企業であり、かつ元気印企業であるが、今回はその中から「沖縄教育出版」を紹介する。

同社は、代表取締役会長の川畑保夫氏により、今から40年前の1977年に創業した企業。当初は社名のとおり、川畑氏の前職の経験を生かし出版事業でスタートしたが、ワンマン経営に対する社員の反発や過労もあり、川畑氏はやがて心身共に疲れ果て、そのうちに重いガンを患い、長い闘病生活を余儀なくされた。

このことがきっかけで、健康や一緒に働く仲間の大切さに気付いた。奇跡的に退院、復帰した後は、今日の事業のベースとなる「健康商品」（食品や化粧品など）分野に進出したのである。

後発型企業ということもあり、本体は開発と企画に特化し、製造は全て信頼できる協力企業に委託する、いわゆるファブレス企業を志向した。加えて言

えば、全国各地に直販店を設ける余裕もなく、また販売商社などに依頼すれば値決め権を失うばかりか、最も大切なエンドユーザーの顔の見える開発ができなくなると考え、「テレマーケティングによる通信販売」を選択した。テレマーケティングの要は「親切丁寧な仕事をする心優しいスタッフ」と考え、入院前とは打って変わり、社員教育や「お互いさま風土」の醸成に注力した。

同社から学ぶべき点は多々あるが、その代表格は「朝礼」である。筆者はこれまで8000社以上の企業の現場を訪ね、その朝礼にも参加させていただいたことがあるが、正直な感想を述べると、徳島県の「西精工」と並ぶトップの「朝礼」であった。

その詳細をここで述べる紙面的余裕はないが、当日の朝礼時間は、午前9時から10時10分までの70分間に及んだ。当日は、事務所の通路に全員が並び、「お互いの肩もみ」「ハッピースマイル」「お客さまからの感動のエピソードの紹介」などがあり、そして最後は社員たちと筆者ら参加者全員が手をつなぎ、小学校時代を思い出させる「フォークダンス」を踊ったが、あっという間の楽しい心温まる「朝礼」を経験した。

日頃からのこうした努力が実り、順調に業績を伸ばし、今や、パート社員を含め社員数は約130人。同業界では、リピーター率がトップクラスの超優良企業にまで成長、発展している。



万代くんとつぼさくんの
“ロダン・タイムズ”
税理士：八百板 誠

行けるときに 遠い旅に出掛けます
ビブグルマン・星なしの旅 2
兵庫県の巻



ビブグルマン&星なし 2

ビブグルマンの旅第2弾です。
(用語解説は右記をご覧ください。)

(その1) 連休中のホテルを ネット予約するのは大変です。

今回は2泊3日の関西旅行。大人5人のワゴン車旅行を計画していました。11月の連休で、シングル5部屋をネット予約しようとする、1室3万円台ばかり…。直前になると、ビジネスホテルも出始めますが、空室料金に特性あり(だんだん下がる)

【仕組み】高い料金で最初に予約を入れた人の、キャンセル料金以内で下がっていきます。

【某ホテルネット料金】マックス高め 9,000円
ちょい高め 7,500円 通常料金 6,500円

宿泊3日前までは、9,000円と表示されますが、2日前(キャンセル料20%)には7,500円へ。当日(キャンセル料80%)では6,500円と表示されます。

今回の狙い目は、2日前。

旅行先は、風任せならぬ、ネット空室まかせとなります。ロダン君が、普段から当日予約が多いのを理解できましたか。2、3人ならまず泊まります。

今回、最初にネット予約が取れた場所は、神戸駅前のホテルでした。

(その2) ビブグルマン分析(兵庫県)

ビブグルマン店舗は、兵庫県内に76店舗ありました。上位のジャンルは、イタリア料理17店舗、日本料理14店舗、そば11店舗、寿司7店舗、居酒屋が6店舗でした。

他には、フランス、インド、焼肉、鉄板、おでん、ラーメン、串揚げ、うなぎなどがありました。

(その3) 元町・三ノ宮のビブグルマンの旅

普段、運転手のロダン君。今回は諸事情により、飛行機で現地集合となりました。伊丹空港からリムジンバスで三ノ宮駅へ。新潟から3時間もかかりません。車なら9時間くらいかかります。

ちなみに、元町・三ノ宮エリアあるビブグルマンは、計11店舗。イタリア料理が6店舗、フランス

料理が2店舗、あとはインド・そば・寿司・串揚げが1店舗ずつあります。

『ビブグルマン』…聞いたことのない言葉ですね。グルメ情報本として知られる『ミシュランガイド』に登場する言葉です。星の評価からは外れるけれど、安くておいしい店として紹介されるとき用語です。フランス語に由来し、『食いしん坊』の意味もあります。ビブグルマン以外に『星なし(調査員おすすめ)』もあります。

(その4) ビブグルマン 1店舗目 串揚げ

ロダン君は、串揚げ(やす桜)を事前予約。食べログ3.57と高評価。串揚げのコース料理のお店。カウンターとテーブル1つのこじんまりとしたお店です。スタイリッシュ感のあるコース料理でしたが、お腹は満腹にならなかったため、明石焼きの「司」(食べログ3.51)に寄って、お腹を満たし、神戸市役所の24階無料展望ロビーで夜景観賞をして、ホテルに帰りました。

(その5) 二日目 モーニング ふぐ料理 夜は 徳島の居酒屋名店へ

朝は、神戸モーニングを楽しむため、新神戸駅前の「BERTHIER(ベルティエ)」へ。その後、淡路島に入り、いさなぎ神宮をお参りしてから、ビブグルマン(日本料理)店2件目へ。

お店は、「新島水産」といい、水産物卸会社が直営する活け貝の磯焼き(3,200円)が名物。事前予約にて、期間限定の3年ぶぐのコース7,900円(税抜)を頼んでいました。他のお客様は、貝の磯焼きばかり。できれば貝の磯焼きと半分ずつにすれば良かった。

3年とらぶぐですから、他で食べれば1万円超。美味しかったが、食べきれなかった。やはり、ビブグルマンには外れがありません。

ホテルが兵庫になく、徳島へ。夜は、「居酒屋とくさん」へ。太田和彦さん推しのお店。オーナーとの会話がはずみ、店員さんが緊張して接客してくれました。

(その6) 三日目 ロールケーキの一点勝負。 ただただ帰路へ。

朝は、八十八ヶ所巡りのうちの2か所を参拝し、朝7時半に淡路島SAにて食事。9時半には、関西一有名な「小山ロール」の「パティシエ エス コヤマ」に到着。行列に1時間並んで、ロールケーキをゲット。帰りの三方五湖PAにて、大試食会。

(当PAはコンビニ併設、お皿とフォークを購入)その後は、ただただ運転して、夕方には無事新潟に帰ってきました。

想定されたこととはいえ、今回の旅は、「食いしん坊な旅」でした。

業況DIは、改善。先行きは持ち直しへの期待感みられるも、ほぼ横ばい

日本商工会議所が 30 日に発表した 11 月の商工会議所 LOBO（早期景気観測）調査結果によると、11 月の全産業合計の業況 DI は、▲14.9 と、前月から+1.1 ポイントの改善。電子部品、自動車、産業用機械関連を中心に製造業が全体を牽引したほか、インバウンドを含む観光需要の拡大や、消費の持ち直しを指摘する声が聞かれた。他方、人手不足の影響拡大や、仕入価格、運送費の上昇、消費者の節約志向が引き続き中小企業のマインドに影響を及ぼしており、業況改善に向けた動きは力強さを欠いている。

先行きについては、先行き見通し DI が▲15.4（今月比▲0.5 ポイント）とほぼ横ばいを見込む。輸出や設備投資の堅調な推移、個人消費の持ち直し、インバウンドを含めた観光需要拡大、経済対策・補正予算などへの期待感がうかがえる。他方、深刻な人手不足の影響拡大や、原材料費・運送費の上昇などを懸念する声もあり、中小企業の業況感ほぼ横ばいで推移する見通し。

項目別では、全産業合計の売上 DI は▲9.5 と、前月から改善。産業別にみると、小売業で悪化、建設業で横ばい、その他の 3 業種で改善した。

詳細は、日商ホームページ（<http://www.jcci.or.jp/lobo/lobo.html>）を参照。

▶▶ **日商の動き**

梶山地方創生担当大臣との懇談会

産学官金労言一丸で推進を



あいさつする三村会頭（左から 2 人目）と梶山大臣（右から 3 人目）

日本商工会議所は 11 月 16 日、梶山弘志地方創生担当大臣との懇談会を都内で開催した。日商の三村明夫会頭は、地方創生はまだ道半ばであり、産学官金労言が一丸となった推進体制づくりや、KPI・PDCAサイクルの評価・検証を踏まえた戦略の不断の見直しが必要と述べた。梶山大臣は、規制を実験的に緩めるサンドボックス制度の具体化などについて説明した。

技のヒット甲子園@IFFT

12 会議所が工芸品 140 点出展



地域の逸品がそろった展示ブース

日本商工会議所は 11 月 20～22 日、都内で開催されたインテリア・デザイン市場のための国際見本市「IFFT／インテリア ライフスタイル リビング」で、共同展示商談会「feel NIPPON『技のヒット甲子園 2017@IFFT』」を開催した。商談会には、久慈、燕、佐野、桐生、名古屋、桑名、鯖江、京都、泉大津、大和高田、府中、有田の 12 商工会議所が、約 140 点の工芸品を出展した。

▶▶ **行政等からのお知らせ** 【平成 30 年 2 月 2 日開催 セミナーと交流会についてご案内】

新潟市食文化創造都市推進会議は今年度第 2 回目の食文化による地域活性化セミナーを開催いたします。テーマは「食によるまちづくり、コミュニティづくり」です。食を入口にした地域活性化の取り組みを、国内外の事例を中心に 2 人の講師からお話をさせていただきます。

詳細は別途添付の案内チラシをご覧ください。参加を希望される方は平成 30 年 1 月 25 日（木）までに添付の「参加申込書」を電子メールまたは FAX にてお申込みくださいますようお願い申し上げます。

【お問合せ先】：新潟市食文化創造都市推進会議事務局（新潟市 農林水産部 食と花の推進課内）
電話 025-226-1794 担当 南・阿久津

平成29年度 第2回食文化による地域活性化セミナー・交流会

食によるまちづくり、 コミュニティづくり ～食文化が地域を変える～

参加をご希望の方は
裏面「参加申込書」か
らお申込みください。

【日時】平成30年2月2日(金) 地域活性化セミナー 15:00～17:45
交流会 18:00～20:00

【会場】ホテルイタリア軒(新潟市中央区西堀通7番町1574)

◎地域活性化セミナー：3階 サンマルコ ◎交流会：12階 ゴンドリーナ

【プログラム】

1. 地域活性化セミナー 15:00～ 参加費無料 定員80名
3階 サンマルコ

(1) 平成30年度 新潟市食文化創造都市推進プロジェクト支援事業の募集について

(2) 講演

●講演1 「食文化による地域活性化の取り組み」



講師：杉浦 幹男 氏(すぎうら・みきお) アーツカウンシル新潟 プログラムディレクター

【略歴】東京都出身。東京藝術大学美術学部芸術学科卒業。大阪市立大学大学院創造都市研究科修了。三菱UFJリサーチ&コンサルティング主任研究員、NPO法人映像産業振興機構(VIPO)大阪・京都事務所長、(公財)沖縄県産業振興公社ハンズオンマネージャーなどを経て、2016年3月末まで(公財)沖縄県文化振興会(沖縄版アーツカウンシル)プログラムディレクターを務める。2016年9月より現職。

●講演2 「食を活かした地域拠点づくり」



講師：風間 教司 氏(かざま・きょうじ) 有限会社 風間総合サービス 代表取締役

【略歴】栃木県鹿沼市出身。大学卒業後、印刷・広告営業職を経て、1999年鹿沼市の自宅にカフェ「饗茶庵」、2003年にその隣に古民家を利用したイベントスペース「花蓮」をオープン。2006年より創業支援・チャレンジショップ事業「ネコヤド大市」を主催。同年 根古屋珈琲研究所設立、店舗の立ち上げサポート実績20店舗以上。2015年ふるさとづくり大賞総務大臣賞受賞。

(3) 講師2名によるディスカッションと質疑応答

コーディネーター：阿部 貴美 氏(あべ・たかよし)

新潟市食文化創造都市推進会議 推進委員
学校法人国際総合学園 新潟農業・バイオ専門学校 学校長

2. 交流会 18:00～
(会費制) 12階 ゴンドリーナ

参加費5,000円

定員50名



新潟市食文化創造都市推進会議は、新潟市の魅力である「食文化」をさらに磨きあげ、市内外に広く発信し、交流人口の拡大や地域産業の活性化を図ることを目的に、平成26年8月に設立されました。食文化発展に関する会員の取組を支援するほか、食に関わる人々を結びネットワーク構築を目指しています。ぜひご参加ください。(年会費無料)

主催・お問い合わせ：新潟市食文化創造都市推進会議事務局

(新潟市農林水産部食と花の推進課内 TEL:025-226-1794 FAX:025-230-0423)

食文化による地域活性化セミナー・交流会 参加申込書

下記に必要事項をご記入の上、FAX または電子メールにてお申し込みください

業種 ※あてはまるものに○	所属 (企業・団体 名) ・ 役職	フリガナ 氏名	※参加するものに○		電話番号
			セミナー	交流会	
①製造・販売 ②広告・企画 ③農林水産 ④宿泊・飲食 ⑤官公庁・団体 ⑥その他					
①製造・販売 ②広告・企画 ③農林水産 ④宿泊・飲食 ⑤官公庁・団体 ⑥その他					
①製造・販売 ②広告・企画 ③農林水産 ④宿泊・飲食 ⑤官公庁・団体 ⑥その他					
①製造・販売 ②広告・企画 ③農林水産 ④宿泊・飲食 ⑤官公庁・団体 ⑥その他					

※いただいた個人情報は本セミナーその他本会議事業のご連絡以外に使用しません。

※お車でお越しの場合はイタリア軒地下駐車場をご利用ください。なお、駐車場が限られておりますので、できるだけ公共交通機関でおこしください。

F A X 0 2 5 - 2 3 0 - 0 4 2 3

電子メール info@niigata-shokubunka.com

申込〆切 1 月 2 5 日 (木) まで

問い合わせ先

新潟市食文化創造都市推進会議事務局

(新潟市 農林水産部 食と花の推進課内)

電話 : 0 2 5 - 2 2 6 - 1 7 9 4 担当 : 南・阿久津